

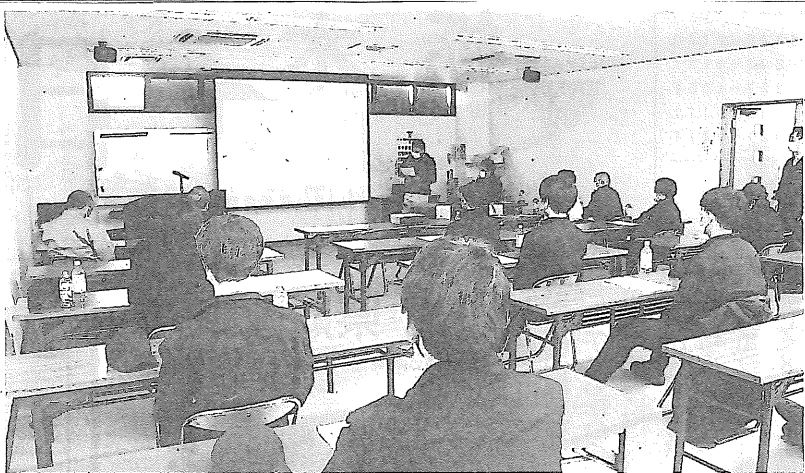
宇管工

産技校生へ実技講習

分水作業でやりがい伝える

二ヶーションを体験するよい機会でもある。業界の雰囲気も感じ取ってほしい」と話し、生徒の進路選択の一助となることを期待した。

生徒の小池愛さんは「水は生活に欠かせなく、絶対に必要だ。もともと建築に関心があり、その中でも多くの人が関わるものに携わりたく配管業に興味を持った」と話し、「はじめは難しいと思ったが、水が出た時の達成感が大きく自信になった。講師の方もやさしく丁寧に教えてくれて、やりやすかった」として、配管業への思いをいっそう強くしていた。



宇都宮市の水道について解説

宇都宮市管工事業協同組合(中村勝理事長)は7日、管工事会館で分水作業の実技講習会を開催した。同組合青年部会(福富昭部会長)の会員が講義や実技指導を行い、県立県央産業技術専

門校建築設備科の1年生13人に分水作業の役割や手順を教えた。開講にあたり、中村理事長は「今回行う分水作業は、建物設備と道路設備にまたがる大変重要な作業だ。本日講師を務め

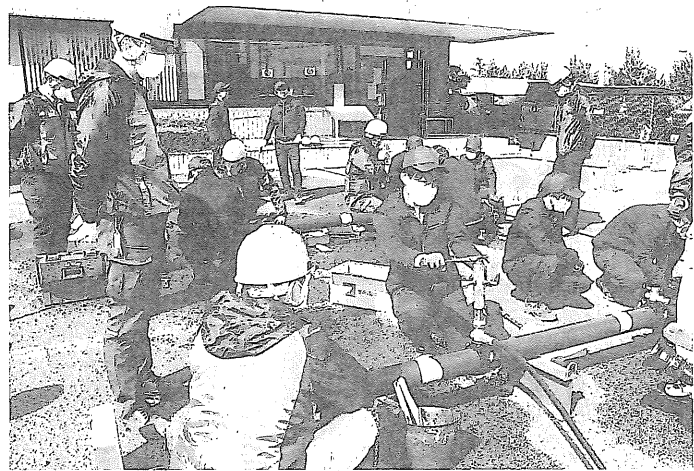
るような現役のベテラン技術者は、数が少なくなっている。講習を通じて興味を持ってもらい、ぜひいっしょに仕事をしたい」とあいさつした。同組合教育技術委員会の黒川平委員長は「取水してから漏らさず止めないで蛇口までもってこる分水は、大切な作業だ。体験できる機会も少ないので、作業して質問もどんどんしてほしい」と述べ、積極的な参加を呼びかけた。座学では青年部理事の星野祥史氏が、宇都宮市の水道の歴史や配水の仕組みなどを紹介した。また、老朽化した配水管の交換や災害時の対応などを通して、住民の生活を支える誇り高い仕事であることも伝えた。分水作業に関するDVDも視聴した。駐車場に移動し、水道

の配管を模した設備を使用して実習に入った。取り付け管の清掃後、分水栓の取り付け・仮締めから本締め、穿孔、通水ま



中村理事長

で一連の作業を行った。生徒たちは青年部会員による説明を聞き指導を受けながら、一つ一つの作業を確実に進めた。同校の古沢和夫教授は「昨年の実技講習では、指導した会社への就職につながった。直接指導してもらったことは、就職してから職場でのコミニ



分水作業の実習のようす